



# 札私幼

第140号

平成23年12月22日発行

《編集》  
札私幼広報委員会

《発行責任者》  
社団法人  
札幌市私立幼稚園連合会  
芝木捷子

札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10  
札幌市生涯学習総合センター内  
☎671-3590 FAX 671-3591

## 今思う

札幌市私立幼稚園連合会  
会長 芝木 捷子



二学期も終わろうとしていきます。三月十一日には大きな地震があり、津波があり、そして原発の問題がありました。

札幌は大きなことにならず、東北からの転園の子ども達に対する処遇を考えてあげられる立場にありました。そのような中でも、子ども達は元気に遊び、健やかに成長していることと思いません。

札幌市では、こども未来局の管轄として、預かり保育を待機児解消の事業として位置づけ、就労証明をつけて、補助金の対象にしているという動きがあります。月曜日から金曜日、月曜日から土曜日のいずれの回数で預かり保育をするかによって、また、長期休みの預かりの仕方によって、こども未来局の取り扱いが違ってくるというものでした。また、一

二歳の子ども達に対する保育を幼稚園の中に無認可保育所を設置し、保育をするという計画が出されています。いずれも事業として行っていくには、内容を検討していく必要があると思っています。

最近「三つ子の魂百まで」という事はないと言われ始めています。大切なことなのに、どうしてなのかと思つていました。そんな時に、江戸町民の「子育てしぐさ(思草)」に出会いました。町民、特に丁稚奉公をする子どもたちに対しての子育てしぐさなので、今の子育てとは違ふと思うところはありますが、江戸時代ならではのものがあつて、今にも通じるものはたくさんあると感じました。

「三つ心、六つ躰、九つ言葉、十二文、十五理で未決まる」というものです。

「三つ心」とは、江戸の町衆は、人間を脳・体・心の三つからなっていると捉え、心は脳と体をつなげる糸のようなものと考えました。そこで、三歳までに、この糸を綿密にはらせようとした。

心がなければ人形で、人間ではないという認識があつたようです。

三歳までに子ども達の人格は決まってしまうので、十分愛情を注いで、人に思いやりのある子に育てましょう。

「六つ躰」とは、六歳までに、三歳で張つた糸を自由に動かす動かし方を訓練させました。従来しぐさや日常茶飯事のしぐさなど、癖となるまで繰り返し訓練し、身に付けさせました。

六歳までに挨拶の仕方や箸の持ち方から始まって、一通りの躰を済ませておきましょう。

「九つ言葉」とは、九つまでには、商人の子どものらしい挨拶、大人のことは、世辞が言えるようにしました。世辞とは、現代のお世辞とは違つて、「○○さん、こんにちは、今日は暑いですね」などの挨拶や「お身体は大丈夫ですか」などの相手を思いやる言葉を付け加えていくことができるという事です。

九歳までには、どのような人にも失礼でない言葉遣いができるようにしましょう。

「十二文」とは、十二歳までに、主人の代書(注文、請求書や苦情処理など)ができるようになる。商家の主人にどんなことがあつても、すぐに代行でき

るようにするためなのです。十二歳までに、いろは四十八文字の手習いから始まって、数字、納品書、請求書、苦情処理書など、さまざまな用途にわたる手紙の書き方をマスターしておきましょう。

「十五理」とは、十五歳では、物事の道理(経済・物理・科学・心理など)が理解できるようにさせる。この年齢になると、その子の将来がわかってきます。商人に向く子ども、学者の道に進む子ども、その他の道に進みたい子どもの様子が見えてきます。子どもの個性を尊重して、能力を洞察し、将来を見抜いて、その子にあつた道に振り分けるのが、寺子屋の師匠の務めだったそうです。

十五歳までに暗記ではなく、こうした諸々のことが理解できるようになつていないと、将来商人として使い物にならないということでしょう。

このように江戸のしぐさとして、家庭で育て、丁稚として育つてきて、一人前の商人になつていったこのことは、数え年で行っているのだろうという事を考えあわせても、年齢に合わせていったものは数少ない子育ての指針だったようです。育つときには育つのだから、その子どもにも合わせて様子を見ていけばいいという個人重視の考え方も大切ですが、伝えていかなければわからないこともたくさんあります。伝え、様子を見て、伝えたいことが少しでもできた時には認めていくことを繰り返すことによつて、子どもは育つていくのだと思います。そして近くにいる大人は、良いモデルとなつていくことが大切だと思います。

# 札幌市新規採用研修に参加して

平成23年度札幌市幼稚園新規採用教員研修「宿泊研修」平成23年7月26日（火）～29日（金）、青少年山の家で実施されました。

7月26日（火）午後1時30分、今年4月新規に採用された先生方139人が「ちえりあ」に集合しました。開講式では風無隆夫教育研修担当部長が主催者を代表して、芝木捷子会長からそれぞれ挨拶があり、研修期間中の講師陣が紹介されました。その後、バスに分乗して南区の青少年山の家に移動し、3泊4日の研修がスタートしました。教師の心得や身体表現を楽しむ実技や、野外活動を通じた自然との関わりなどを研修しました。

講師陣の推薦により4人の先生に感想文を依頼しました。



1学期を終え、自分自身に様々な課題やこれからの不安を持ち「23年度新規採用教員研修会」を迎えました。

130名近く集まった同期を目の前に、初めはとても不安で、知り合いもい

ない班でうまく接して行くことが出来るだろうかという気持ちが大きかったのを今でも覚えています。この度の宿泊研修では様々な講義を聴かせていただいたり、同じ悩みや不安を持つ仲間とグループ協議をすることで、自分自身の保育観、気構え、またこれからありたい自分の姿を見つめ直す機会となりました。

私は、4月から1人担任でクラスを持たせていただいています。就職してからこの4ヶ月、目まぐるしく日々が過ぎて行きました。毎日をこなすのが精一杯で、視野がとて狭くなっていることを



風無部長挨拶



芝木会長挨拶

自分自身でも感じていました。毎日の保育の中で幼児期の大切な時期に携わることの重みを知り、それと同時に、「そんな大切な時期に私に関わっていいのだろうか」という責任の重さを感じました。今回の宿泊研修はそんな不安や悩みを抱いての参加となりました。

ご講義いただく中で、「保育のプロ」として仕事を行っていく姿勢や、1人で保育を行っているのではなく、周りにはたくさん協力者がいるのだということを受け、いままでの保育を振り返りました。

私は常に自分のことで一杯いっぱい周りを見る余裕がなかったけれど、いつも先輩の先生方は助言やサポートをしていてくれたことを改めて感じ、また、感謝といまままでの自分の至らなさに恥じる思いでした。また講義の中では「信頼」の大切さについてもお話いただきました。これから私は様々な方々に、信頼をいただけるよう頑張りたいと思います。

この度の研修を経て、様々な人との出会いがあり、それは私の考え方を広げてくれました。こうでなくてはならないというものはなく出会った人たちがみんな様々な考え方があるのだということを知りました。これからも、様々な出会いを大切に自分自身の感性を磨いていこうと思います。

最後になりますが、このような貴重な機会をいただきありがとうございます。関係者の皆様には心より感謝申し上げます。今回の研修を生かし日々研鑽を積んでいこうと思います。本当にありがとうございました。

## 手稲育英幼稚園 小林 萌未

幼稚園教諭となり、4ヶ月。初めて出会う先生方や、子ども達、保護者の方々に囲まれ、日々緊張しながら過ごしていた中で、新人研修、100名を越える見ず知らずの同期と3泊4日を共にするという事で、自分の中では、「初めて出会う人とうまくやっていけるのだろうか。」という不安でいっぱいでした。

しかし、同じグループの仲間達と自分の考えや思いを伝え合うことで、そのような不安も無くなり、理想の教師像についてグループ協議をすることで、「子どもの気持ちに寄り添い、理解していくこと」「自分は子どもたちの鏡だという自覚を持ち、責任ある行動をとっていくこと」として、「常に感謝の気持ちを忘れず、謙虚で前向きな姿勢で日々目標に向かって努力していくこと」が大切であるということや、教師の心構えについても学ばせていただきました。また、大自然の中での研修では、自分自身も童心に戻り、発見する喜びを感じたり、生命の偉大さや尊さについても一度見つめ直すことができました。そして、保育者は子ども達と同じ目線に立ち、経験を共有することで信頼感が生まれ、また自分の感性を磨くことができるということも教えていただき、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

この4日間を通し、仲間達同士、互いを思い、気づかい、協力し合いながら一日一日を過ごすことで、徐々に信頼関係が生まれ、心を許せる仲間となっていく、「出会い」が、人を成長させる大切な糧となっていくということを、とても実感させられました。初めて出会う人達の中へ飛び込んでいくことは、とても不安であり、勇気のいることだと思いますが、これは大人だけに留まらず、子ども達にとっても同じく言えることだと思います。

初めて出会うクラスのお友達に新しい先生と何もかも新しくゼロからのスタートである幼稚園生活が、毎日の活動を通して楽しいと感じたりわくわくしたり、時には怒ったり悔しがったり感動したりと、様々な経験を重ねていくことで子ども達



バス乗車



山の家での研修

も達同士の友情や子どもと保育者との信頼関係が築かれたりするのだと思います。

今回の研修を通し、自分自身ゼロからの環境の中で培った素晴らしい経験と出会いを大切に、また自分の保育について見つめ直すことができ、より子ども達の気持ちや保護者の気持ちに寄り添い理解し、導いていけるような保育者となっていきたいと強く思いました。

最後になりますが、私達にこのような素晴らしい学びの場を与えてくださった札幌市教育委員会の皆様、講師の先生方、並びにこの研修に関わった多くの皆様方には、感謝の気持ちでいっぱい입니다。本当にありがとうございました。

## 北海道文教大学 付属幼稚園 村中 大御

私は2年目の教員ですが、今年度初めて「札幌市幼稚園新規採用教員研修」に参加させていただきました。3泊4日という宿泊研修のなかで、じっくりと講義を聴いたり、実技を学んだりとても充実した日々を過ごすことができました。普段勤務しているときには短期間で集中的にできるものではないので、とても良い機会をあたえていただきました。

今回一番印象に残っているのが、「教師の心構え」の講義の中で、「保護者は担任や先生を選ぶことができない」というお話でした。選べないということは、いかに子どもにとっても、保護者にとっても信頼される教師になるのが大事です。「この先生で良かった」と少しでも思われる教師になるには、講義で学んだ理想の教師である「生きる力」が具わっ



グループ討議会場

ている教師になること。そんな理想の教師に少しでも近づけるように、子どもと毎日真剣に向き合い、汗を流しながらたくさん遊び、日々積極的に色々な体験をし、自分自身の人間性を豊かにして保育に活かしていきたいと思います。

他にも宿泊研修では、自然との関わりについての研修が多くあり、自然の中を散策して、自然物を拾って班で共同制作などをしました。私は現在、子育て支援の担当をしております。私の園は自然が豊かなのでぜひ今回の研修で学んだことを土台として、子育て支援でも家ではなかなかできないような自然体験の場を提供し、参加親子にとって「楽しかった」「また来たい」と思えるような子育て支援の場を作っていきたいと思います。

また、3泊4日という研修で、共に生



グループ討議

活し共に学んだ仲間ができたこともこれからの人生での財産になると思います。困ったときは助け合い、同じ仕事をする仲間として共に成長していきたいと思えます。

最後になりましたが、この研修を企画・運営していただきました札幌市教育委員会の方々を始め、講師の皆様、関係者の方々、このような研修の機会を与えていただき本当にありがとうございます。今回の研修を無駄にしないように日々たくさんのことを学んでいきたいと思えます。



私は新規採用教員研修に参加させて頂き、改めて保育の基本や内容、社会人としてのマナー等を学びました。4月から幼稚園の先生として働く中で、実際に行ってみてから感じた「自分に足りないもの」や「出来ていたつもりでも間違っていたこと」に気が付く事が出来、とても勉強になる講義ばかりでした。

日々子どもたちと接していく中で、自分の引き出しの足りなさに気が付き、もっと学生時代に学んでおけば良かった、沢山の先輩方からもっと様々な保育の方法を吸収しておけば良かったと思えました。しかし、毎日を過ごす事に精一杯になっていて学生の時のように勉強す



討議内容の発表

る事も出来ずにいました。今回の研修会では、講師の先生方に実際にあった事例や行ってみたい事だったか、という事まで教えて頂き、保育の引き出しを増やす事が出来ました。自分が実際に行ってみて楽しかった事を子どもたちに下ろす事で、今まで以上に子どもたちも楽しめるのではと思いました。

講師の先生方や同期の先生方に教えて頂いて学んだ事をしっかりと自分の物にし、保育の幅を拡げていこうと思います。

また、屋外で演習として自然物を集め、環境やおもちゃ、劇で使用する小道具等を班でアイデアを出し合い、協力して制作を行う事で自分だけでは出来なかった事や想像の付かなかった事にまで挑戦することが出来、とても良い体験になりました。これから保育を行っていく中で、

今回の体験を生かして子どもたちに自然の楽しさや美しさ、厳しさ等沢山の事を伝えていきたいと思いました。

普段は学べないような事を、今回の研修会に参加し学ぶ事が出来ました。子どもたちと接していく中で困った時や躓いてしまった時は今回の研修会を思い出して、一から自分を見つめ直して考え、時には同期や先輩方にも相談していけるようにしたいと思います。

最後になりましたが、札幌市教育委員会の皆様、講師の先生方、関係者の皆様、お忙しい中素晴らしい貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございます。今回学んだ事を生かし、少しでも幼稚園教育全体に貢献出来るよう頑張っていきたいと思えます。本当にありがとうございます。



参加者

# 第53回北海道私立幼稚園教育研究大会

## 札幌ブロック大会を終えて

9月30日(金)・10月1日(土)の両日、第54回北海道私立幼稚園教育研究大会札幌ブロック大会兼第43回札幌市私立幼稚園教育研究大会が開催されました。

1日目の午前中は、各区の会員園17園と中央区にある札幌市立中央幼稚園による公開保育および札幌私立元町北小学校(東区)の1年生から6年生までの全学級の公開授業がされ、参加者は熱心に参観しました。午後からはそれぞれの会場で分科会、研究討議が行われました。

また、なかのしま幼稚園においては教員免許更新時講習も行われました。本年度は、市立幼稚園の先生方、小学校の先



芝木会長挨拶(上)  
町田教育次長挨拶(下)



大野P連会長挨拶(上)  
講師久住氏(下)

生方の参加もあり、参加者数は1643人となり最大規模の大会となりました。

公開保育をされた当番園の皆さん、そして、札幌市立中央幼稚園園長池上由紀子先生と諸先生方、学期末と学習発表会を控えた多忙の中、公開授業をいただいた元町北小学校校長渡辺寛志先生をはじめ諸先生方・児童の皆さんに感謝いたします。幼児教育センターおよび札幌市立幼稚園園長会のご支援に感謝申し上げます。

第2日は、札幌市民ホールにおいて、9時30分から開会式を行ない、芝木会長の挨拶に続いて、札幌市教育委員会教育次長町田隆敏氏、札幌市市立幼稚園PTA連合会会長大野浩人氏の2氏から祝辞を頂きました。

10時から90分間、「本にはすべての答えがある」と題して、(株)久住書房代

表取締役社長久住邦晴氏の講演がありました。

二冊の本が出来るまでには、多くの歳月と工程、数十人が関わり「良い本を読んでほしいという想いがギュッと詰まっている。だから、本には力がある。どうか一生の友達にしてもらいたい。」と語る。久住氏自信、「あなたの会社が90日で儲かる」という本に出会い、「今まで非常識と言われていた中にこそ成功のヒントがある。」に強く感じ、「人を集めること」と「マスコミを動かすこと」に腐心し、「なぜだ、売れない文庫フェア」を開催し、倒産の危機から脱した体験を披露された。宮沢賢治の「雨にも負けず」やマザーテレサ、金子みすずの「こだまでしょうか」、「ハチドリの水のしずく」、「あなたが世界を変える日」、「100かいだてのいえ」、岩井俊雄の「アイディ

アはどこからくる」、「20さいの時にしておきたかったこと」などの本を紹介されました。終わりに、氏の大好きなフランスの絵本「ラブ」を朗読され、孤児院になじめない女の子が転院させられる時に木の穴に隠した手紙を院長が読みます。「この手紙を見つけてくれた人へ だいすき」という最後の4文字に心が震えます。



札幌私幼役員席(上)  
来賓各位(下)



幼稚園賛歌



### 公開保育を終えて

札幌みつみ幼稚園 熊谷 ひとみ

あいにくの雨模様となった公開保育当日。天候が悪い中、多くの先生方にご来園頂き嬉しい反面、緊張で身が引き締まる思いをして皆様をお迎えしました。

たくさんの知らない方を前に、子どもたちもさぞ緊張するのではと登園の様子を見ていましたが、玄関で見せる顔は普段と変わらない表情。活動が始まってからも製作に夢中になり、いつも通りの賑やかな姿を見せていました。子どもたちの方がずっと落ち着いて、堂々としていたように思います。

活動の中では、年少児が一生懸命年中児と年長児のやっていることを見てまねっこしようとしたり、年長児が年中少児のことを気に掛けお世話しながら作業をする様子が見られ、それぞれ子どもたちが自分なりに色々な表現の仕方を楽しんでいるようにでした。



保育後に行われた保育研究では、この頑張っていた子どもたちの姿をちゃんと見て下さっていた先生方の目があ

りたきさんのお言葉も頂くことが出来ました。

この度公開保育をさせて頂いたことによ



り、私たちが普段行っている保育を別の目で見て頂き、今一度自分たちの保育を振り返り良いところ、改善しなければならぬところなど、見直すよい機会となりました。そして子どもたちにとつても、たくさんのお客様がいた中で一生懸命自分の力を出して頑張り、それをちゃんと見て認めてもらえたことに喜びを感じ、自信に繋がっていったことは間違いなくと思います。後日子どもたちに「見に来てくださった先生たちがいっぱい褒めてくれていたよ」と話した時の笑顔、本当に嬉しそうにしていました。私たちも子どもたちの一生懸命な姿を見て頂けたことをとても嬉しく思います。この経験で得たことは幼稚園の財産として、今後の保育の中で必ず生かしていきたいよう努力をしていこうと心に強く思っています。

### 公開保育を終えて

ひかり幼稚園 三浦 舞子

今回の研修を振り返り、「保育」についてより深く考えることそれぞれの幼稚園の様子を伝えることの大切さを学びました。見学に行く立場から、見学される立場となり私にとって少し緊張した経験でした。教師としてまだ4年目ですが、日々があつという間に過ぎていき、自分の保育について深く掘り下げることがあまり無かつたように思えます。そのような事を意識して今年度を過ごす中で私が感じたことは、保育は一人では成り立たないという事です。現在三十人の子どもたちと一緒に過ごしています。個性豊かな子どもたちが多くなつていくなか、クラスを一つの集団としてまとめるには、子どもに沿う教師の保育の心がぶれてしまつては、クラスの軸もぶれてしまうことを感じます。

自園は、二人体制で子どもたちを見ていける環境で私自身もとても安心をして日々の保育に取り組めます。一緒に組む教師と同じ見方をし、切磋琢磨し合う事の大切さを感じます。それぞれのクラスがどんな意図や見通しをもつて形成してきたのかを、見学して頂いた方に伝える事により、自分の保育が整っていくことを実感しました。日々より多くの保育者と意見を交わすことで、見えていない部分に気づかされ園全体



で保育を振り返っています。保育の統一性と、いつでも相談できる教師陣がいるという環境の必要性を強く感じます。見学して頂くことを通して、我が園の環境、自分の保育を見直すことができて感謝でした。

私はひかり幼稚園でしか勤めた事がありません。毎年他の園がどのような保育をしているかと興味がありました。今年の分科会では同じ議題に対して、少人数で色々な質問をし合い他園の様子を聞くことが出来ました。大変有意義な時間でした。見学をしただけではわからないねらいを知ることや、それぞれの園の違いを知り、保育の可能性に期待感を持つことが出来ました。札幌市内だけでも数多くの幼稚園があり、一つとして同じ園はないということを知ることが出来ました。年に一度のこの研修は、意見交換をしてこそ意味のある研修ではないかと感じました。この経験を無駄にすることなく、目の前にいる子どもたち・保護者・教師と共にこれからも成長していきたいです。

公開保育を終えて

つよし幼稚園 本間 友季

9月30日の公開保育には60名の先生方が参加してくださいました。

「たてわり活動を通して子どもの心が育つ遊びを工夫する」というのが当園の公開保育のテーマでした。これまでも、年に数回たてわり活動は行ってきましたが、縦の関わりが深まっていくというよりは、それぞれが好きな遊びを見つけて遊ぶ個々の遊びになりがちでした。そこで、縦の関わりをより深め、思いやりの気持ちを育むために今年度は年少・年中・年長を混ぜた5〜6人の小さなグループを構成し、一緒に活動していくことで関わりを深めていこうと考えました。

当日、朝の自由遊びでは、自分の得意な長縄を見てもらおうと張り切っている子どもたちの姿や、公開保育にいらした先生方に元気よく挨拶する姿が見られ、嬉しく感じました。今回のたてわり活動は、園内に5か所設けられた運動遊びのコーナーをグループでまわり、長縄やサーキットなど、グループみんなで課題をクリアしてシールをもらうという内容でした。



た。年長の子どもたちが、自分のグループの年中少の子どもたちを気遣いながら手をつないで各コーナーへ移動する姿や、順番待ちの時にはベンチで年少の子をひざに乗せて待つ姿も見られました。グループが作られた頃よりも、関わりが深まり少しずつ思いやりの気持ちも生まれているように感じました。活動が終わった後、年少少のお友達をクラスに送り届け、自分のクラスに戻ってきた時の年長の子どもたちの表情はとても満足そうで、「お世話大変だったけど楽しかったー!」とお兄さんお姉さんとして、年中少の世話をする事に喜びを感じている様子が見られました。「今度はいつできるの?」と、次のたてわり活動を楽しみにする姿があります。

午後からの分科会では、学校法人北海道浅井学園第2大麻幼稚園園長の安藤陽子先生をお招きし、安藤先生が体験してきた「たてわり保育」のお話をしていただき、多くのことを学ぶ事ができました。今回の公開保育の



たてわり活動は、一年間の中の経過の一部ではありますが、これからも引き続き活動を行っていく中で、子どもたち自身様々な事を経験し、また、異年齢の関わりを深め、思いやりの心を育てていきたいと思います。

私自身初めての公開保育で、不安や緊張もありましたが、子ども達が普段通りに元気に過ごす姿があり、子どもたちに助けられた面もたくさんあったように思います。また、大勢の先生方に見てもらえた事は、とても貴重な経験になりました。

公開保育を終えて

聖三カエル幼稚園 松浦 有希

9月30日(金)はあいにくのお天気の中でしたが、ミカエル幼稚園に50名もの先生方が来てくださり、本当にありがとうございました。園児の数77名の小さな幼稚園で、今年度から「縦割り保育」が始まりました。



今年度から「縦割り保育」が始まりました。園児の数77名の小さな幼稚園で、今年度から「縦割り保育」が始まりました。



「縦割り保育」が始まりました。今までのように、全ての先生達や子ども達がお互いのことをわかっていく、より密な関係を築いていきたいと思います。そのような環境の中で、子ども達は、お外でも室内でも年齢の壁を越えて、のびのびと遊ぶ姿が日常的に見られます。

公開保育当日は、「縦割り保育」の良さを生かして、それぞれのクラスが1学期から取り組んできた「ふれあい遊び」・「楽器遊び」・「表現遊び」をお見せしました。いつもと違う雰囲気にならず緊張気味の子ども達もいましたが、たくさん先生の自分たちの姿を見ていただくのをとても楽しみにしていただけあり、元気が良すぎるくらいに普段通りの姿が多く見られたと思います。

私のクラスでは4月から「表現遊び」に取り組み、ピアノの音を良く聞いて季節にあつたストーリーを表現しています。初めのうちは、恥ずかしがっていたり、お互いの動きを見て笑っていた子ども達も、今では40近いレパートリーがあり、一人で表現できるようになったり、自分たちでアイデアを出し合い動きを



工夫するということも出てきました。年長児の動きを見て年中少児が憧れを持って真似をしたり、年長児が周りをよく見て、年中少児のペースに合わせて手を取って一緒に動いてくれたりするようにもなりました。お互いが自分たちを認め合い、みんなで一つのことに取り組みことうで、今回のテーマでもあった「育ち合う」という関係をさらに築いていってほしいと願っております。

また、午後からの分科会では「発達の気になる子の理解と支援」共に育ち合うために」という研究テーマで麦の子会の金澤俊文先生にお話をいただきました。近年当園でも増えてきた、支援を必要としている子、発達の気になる子にとって、まずは職員がどう理解をし支援をしていけばよいかということをおぼ、よりよい時間を過ごすことが出来ました。子どもの持つ持っている本来の発達ペースを生かし、「できないこと」ではなく、「できること」「できかけていること」を大切に『ということを心に留め、今後、一人一人を大切にしたい保育をしていきたいです。』



**「公開保育を終えて」**

丘幼稚園 教頭 佐藤 純子

子どもは行事を通して伸びるをテーマに、年長児1クラス・年中児2クラス・年少児2クラスの計5クラスを公開いたしました。この日はあいにくの雨模様で園内活動のみとなりました。比較的大きのある園庭で子ども達がいそいそと遊びに取り組み姿を想像してきた私達はもとより、参観して下さった方からも惜しまれる声が聞かれたのは言うまでもありません。

市内札幌のほかには名寄市・旭川市・上富良野市・恵庭市・苫小牧市からも多くの方が来園して下さいました。その数は100名以上、おのずと緊張の高まりを感じる職員一同でしたが、子ども達は他園の先生とお会いできた喜びを笑顔と挨拶で表現していたように思います。このことは、参観者のご感想にもあったように「明るく・表情豊か」で人に対する心の柔らかさと、積極的に関わろうとする頼もしさを感じる



ことができました。確かな成長が見られ嬉しく思っております。

子ども達がものを工夫して作る力・身体や言葉の表現力・人と関わる力に挑戦しながら行事「ちびっこおかだまつり」へ向かう一日から、年長児「影絵あそび」年中児「絵の具あそび」「探検ごっこ」年少児「品物作り」「表現あそび」に取り組みました。私達は、子どもの真剣なまなざしや不思議そうな表情の瞬間、そして何より心から楽しむ姿を大切に進める。また保育者として表情、態度、言葉がけ、保育内容に自分らしさを表現する。子どもとのキャッチボールを楽しみ



安心感を与えられる存在となる。ねらいは子どもの発達段階や十分な見取りに基づき、子ども主体の内容を考える。このようなことを心にとめて行いました。思うように運ばなかった点や環境面の不備など多くの反省が残りますが、これからは「保育は生きているか」を問いながら

実践に努めてまいりたいと思います。公開保育を経験するたびに思うことですが、子ども達の作り出す世界の素晴らしさに驚かされ、そこからまた保育者のありかたまでも考えさせられる貴重な機会だと感じております。ありがとうございます。

**公開保育を終えて**

北都幼稚園 総主任 渡辺 英三子

公開保育をするにあたり、それぞれの年限の特徴やクラスの個性が磨かれるような活動にしたいという思いを土台にして、指導案の検討や準備を進めてきました。

園全体のテーマは「一人ひとりの気持ちに寄り添い、考える力や思いやりの気持ちを育てよう」です。指示を待つのではなく「やってみたい」という意欲を引き出す為にはどうしたらよいか…。職員でも日々考え、実践し、試行錯誤しています。子どもの発想は大人の思考よりも遥かに純粹で、明確です。一人ひとりのつぶ





やかに耳を傾け、認めていくことで自己肯定感を育ててあげたいものです。指導案の検討で常に心掛けたのは、自主的な活動へと促す「事」。

「ここは、先生が教え過ぎていないか」ここで、意見を出し合い自分たちで考えられる様にしよう」といった事を念頭に置いて、話し合いを行いました。指導案通りに進むことが目的ではなく、子どもたちが自主的に楽しめるようにどんな工夫が必要か。それは、保育者が常に向き合っていく課題だと感じています。そんな試行錯誤の末に指導案が出来上がり、それぞれの年限で準備を進め当日を迎えました。年長組はホールでの活動。年中組は雨の為、外での収穫が出来なかつたものの2部屋を使用。年少組は、廊下から隣の部屋までを新聞の世界としました。説明に時間を取るのではなく、子どもたちの活動時間を十分に確保しようとして一日の流れを組みました。沢山の先生たちが見守る中、緊張もあつたと思われませんが、先生とクラスの仲間とで共通の目的に向かって、活動することが出来たのではないのでしょうか。

公開保育の後は研究討議を行い、本時に至るまでの過程についてや、食育の取り組みについて詳しく知りたいといった質問がありました。その後も沢山の温かいお言葉で感想を頂き、子どもたちの意見や思いを尊重した保育を感じてもらえた事と感謝しております。

午後は「0才〜3才の子どもの育ちについて理解を深めよう」という研究テーマで講師の先生たちにお話を頂きました。満3才から受け入れている幼稚園としては、入園までの子どもの育ちや保育園の現場での様子を知ることが出来て大変勉強になりました。

公開保育の当番園をさせて頂いたことで保育と向き合い、子どもの目線で考えることの大切さを改めて感じました。私たち保育者が豊かな心で、常に学ぶ気持ちを持ち続けていく事が幼児教育の基礎であると自覚し、これからも頑張りたいと思います。

### 公開保育を終えて

厚別幼稚園 三好 美香

去る、9月30日、市内の幼稚園の先生63名の方々が足を運んでくださり、公開保育が行われました。

今回、私共の園では公開保育に向けて『遊びを通して共に育ちあう』をテーマに保育研究を進めてまいりました。そして、当日は年少組が表現遊びを、年中組



がわらべうた遊びを、年長組が集団遊びをしている様子

本日の講師でもあります布施先生にわらべうたの専任の先生として来ていただき、クラスごとにたくさんわらべうたを教えていただいています。わらべうたの温かいメロディーを歌いながら、人とふれあい向き合い楽しむことにより心が通い合っていく。そんな魅力に子ども達はもちろんのこと、私たち職員も夢中になっています。公開保育の中でも全クラスが普段楽しんでいるわらべうた遊びの様子も見ていただきました。



子ども達は、たくさんの先生に見ていただく日々と違う様子に少々緊張して、いつもの元気より控えめな様子が見られました。が、各クラスで様々な遊びを生き生きと楽しんでいる様子を見ていただけたと思います。

午後からも、私共園の特色や研究テーマに基づいて職員で取り組んできた様子を聞いていただいた後、講師の布施先生からわらべうたの実技指導をしていただきました。

2人組で行うものから、大人数で行うものなどたくさんわらべうたを紹介していただき、参加して下さった先生方も自然に笑顔になり楽しい雰囲気の中、わらべうたの楽しさ魅力を身体で感じていただけたのではないかと思います。

今回、公開保育の機会をいただき、職員全員でこれまでの保育の反省を行い、何が大切か、何が必要かを皆で確認し、学びをより深めることができました。

公開保育を見ていただいた先生方からは、お誉めの言葉や労いの言葉を掛けていただき、無事に終了したことで緊張していた職員も安どの思いでいましたが、これがゴールではなく、学んだからこそ、見えてきた反省や課題に向かい、明日の保育がより良いものになるよう、また職員が一丸となり努力・精進してまいります。



### 公開保育を終えて

札幌あおば幼稚園 笠松 真理子

この度の公開保育担当園をさせて頂き、私たちにとつととても貴重な経験をさせて頂いたことに大変感謝しております。

今年度の研究テーマである「心豊かなあおばの子」遊びを通して感じあおう」ということで、遊びの中で子ども達が様々なことを感じながら、友だちや先生と一緒に育ちあうための保育とはどうあるべきなのかと課題を意識しながら研究を進めて参りました。

教師が子どもたちに経験、感じてほしいことを保育の中で重要視していくことで、細やかな配慮が加わり、私たち教師にとつともさらに気づくことが多く、成長させて頂きました。子ども達が自発的に遊び、自分の気持ちを表現していくこ



との難しさや近年感じておりましたので、この研究のテーマを進めるにあたり、教師間で何度も話し合い、

経過を見てきました。遊びの中で子ども達が豊かに経験をすることで、感情や表情も豊かになり、さらに成長に繋がることとで、「遊び」が子ども達にとつと大変重要であることを再認識するきっかけとなりました。また、教師間で研究を進めていくにあたり、教師それぞれの想いが一つとなったことが子ども達にも反映していくことも目の当たりに感じることができ、保育や子ども達との一瞬を大切にしようとする気持ちも改めて強く感じることができました。

公開保育当日を迎え、たくさんの園の先生方にご来園頂き、保育を担当する者は大変緊張もしておりましたが、いつものあおばの子の様子をご覧いただけたのではないかと思います。保育研究では他園の先生方に様々な視点からのご感想やご質問を頂き、私たち職員にとつとたくさん学びを頂きました。また、助言の先生に頂いたお言葉からもたくさんの励ましと自信を頂きましたこと

大変感謝しております。今後も基本理念をもとに札幌あおば幼稚園らしい保育

を



を展開し、子ども達が安心して楽しく生活し、成長し合える環境作りを心がけていきたいと思っております。

今回の公開保育では普段経験できないことを経験させていただき、私たち札幌あおば幼稚園職員にとつと大変貴重な経験となりました。これからも「心豊かなあおばの子」を育てて行ける様、職員一同で頑張っていきたいと思っております。

この「公開保育」を通して学んだことは、私たち職員にとつと大変有意義な学びであり、今後の保育への大きな自信と糧となりました。ありがとうございました。

### 公開保育を終えて

札幌若葉幼稚園 記内 貴代

若葉幼稚園は、「たくさんのお友だちとのふれあいの中で、社会性や思いやり

の心を養い、何事にもくじけることなく、たくましく育ってほしい」という思いで日々保育を行っております。公開保育でも普段通りの子どもたちの姿を見て頂



こうと思いい、「異なった個性を持つ子どもたちが、健康やかに成長していくための保育」を

テーマとしました。

当園は、身体を十分に使った遊びを通して、元気でたくましい体と強い心を育てることを基本としており、自由保育では、雨が降らない限り外遊びを行い、グラウンドではドッジボールやタイヤ遊び、園庭では固定遊具、鬼ごっこ、縄跳びなどを楽しんでおります。また、菜園や林が隣接しており、自然との関わりを持つ環境にあるので、自分の好きな遊びのびのびと楽しんでいきます。そんな子ども達の姿を見て頂きたいと思っておりましたが、当日はあいにく雨で屋内での活動となりました。外遊びができず子ども達はがっかりしていましたが、ホールでサイバーホイールなどの遊具を使い「わかばっこ」らしく元気に遊んでいました。

年少組の設定保育では、紙粘土を使い壁掛け「にじいろのさかな」を作りました。油粘土や小麦粉粘土とは違った感触を味わいながら、絵本「にじいろのさか

な」のように、カラフルな粘土でうろこを表現し、個性あふれる壁掛けを制作しました。

年中組の設定保育では、「鍵盤ハーモニカ」の練習を行いました。今回は、模倣あそび等を取り入れながら「ちゅうりつぷ」と「かえるのうた」を練習しました。大勢のお客さんの前で友達の手本となり発表する経験も子ども達の自信につながる良い機会になったと思います。

年長組の設定保育では、「抹茶教室」を行いました。日本の伝統文化である「茶道」は、なかなか経験することができないため、子ども達が楽しみにしている時間のひとつです。今回は、席入り・床（掛物・花等）拜見のお稽古やお菓子・お抹茶の頂き方を学び、ゆったりとした時間を過ごしました。

設定保育では、大勢のお客さんに囲まれ落ち着きをなくす子がいるのではないかと思います。どのクラスもさほど緊張せず、普段通りのびのびと活動に取り組んでいたように思います。

午後には、矢野真一先生の講演会があり、絵画を通して子どもの創造性を伸ばすことや、子どもの好奇心を引き出す絵の指導方法などについて学ぶことができました。

今回、公開保育の機会を与えて頂きありがとうございます。この貴重な経験を活かし今後の保育に役立てていきたいと思っております。

## 公開保育を終えて

平岸幼稚園

谷口

瞳

当園では「表現遊びを通しての心の育ち」をテーマに研究発表を行いました。子ども達が伸び伸び身体を動かし自分を表現すること、何かになりきって表現し、演じること、役割を与えられ自身を持って表現すること…子ども達にとって、毎日の生活が成長に繋がっています。今回、5名の教師が公開保育を行いました。担当教師はもちろん、補助に入った教師など全て、子ども達にとつてどのように活動を展開したら、興味を持ち楽しめるか、そして教師の働きかけにより子ども達同士で発展していけるか考えました。当日は、表現遊びや、お店屋さんごっこ・プール活動・劇遊び・楽器遊びをそれぞれのクラスで行い、伸び伸び活動する姿を見て頂けたと思います。

今回、私は午後の分科会を担当し、「縦割り保育を通しての心の育ち」というテーマの基、本園で実際行っている縦割り活動をスライドで紹介しながらの実践発表を行いました。



数年前から「縦割り保育」の大切さを感じながらも中々実践に移せずにいたり、実践しても失敗し、納得のいかない活動となってしまうことがありました。

しかし、何とか異年齢で関わる時間を持ち、それぞれの心の成長に繋がっていければ…と教師一同考えてきました。そこで、これまで行ってきた、「仲良し食べよう会」（異年齢での昼食）・遠足など園外の活動の際の関わり・運動会入場行進など行事での関わりを見直し、子ども達が主体となり、深く関わられるようにしてきました。また、その他「なかよしワッペン活動」として、降園時、年長が決まった子（年中・少）を迎えに行き一緒にバスに乗る…という活動を始めました。当初は、年長児が年下の子とどう接したらよいか分からずいたり、年中・少児は中々心を開かず信頼関係を築くのに時間がかかっていました。教師間で何度も話し合いを重ねてきましたが、正直良い方法を見出せませんでした。しかし、この活動を行ってから3年目に入った頃、変化が見られるよう



になりました。この年、今まで年少・中で迎えに来てもらう、という経験をした子どもが年長になり、年下の子のお世話を自然に行う姿が多く見られるようになったのです。「自分が経験したことが自信や満足感に繋がる」これこそが心の成長なのではないかと感じました。年下の子をお世話する年長児の姿は大人顔負けで、優しく、必要に応じ援助をし声をかけていました。このような姿を間近で見ることができ、今までの縦割り活動が子ども達にとって良いものになっていると感じました。子ども達が、余裕を持つてこのような縦割り活動を行っていきよう、教師一同考えていきたいと思えます。

分科会後の助言を頂き、子ども達が自立していけるよう過保護にならず、見守っていくこと、また少し背中を押してあげ、援助してあげることが大切だと改めて感じました。集団生活の中で、幼稚園が楽しい、と元気に通い、友達に対して思いやりの気持ちを持つ様、成長の助けをし、私達教師も一緒に成長していきたいと思えます。

この度公開研究大会では、教師一同自分達の保育を見直し、よりよい環境を子ども達に与えていける様、改めて考える良い勉強の機会になりました。ありがとうございました。

## 公開保育を終えて

篠路光真幼稚園・里塚幼稚園

北村 幸江

このたび、北区・清田区で公開保育、分科会を引き受けました。当日までの準備を重ね当日を迎えました。当園は夏休み中に、自園でも公開保育・公開指導を行ってききましたので、今回で今年度3回目の公開保育になりました。

全園児を午前保育にしての当日でした。どちらの園も「表現」活動を見ていただきましたが、ご覧頂いた先生達には、どのように感じられ自園と比較されたことかと思いました。

今回の実施園として感じたことを書かせていただきます。

・見学をする時間帯が短時間だったことです。1時間足らずの保育見学では、なかなかその園の保育を「見る」だけの形骸化になってはいないかと心配になりました。

各園に時間帯を任せましたので、私も配慮をするべきでした。

・案内で頂いている札私幼の冊子に書かれていることは、気にしてほしいです。里塚幼稚園の分科会は、体操実技で注意書きもしましたが、準備をされていた方が少なかつたです。

・各区の研究委員の役割は?と感じました。今回は、市立の幼稚園の方から何度もお手伝いのお問い合わせを頂きま

した。自園で出来ることとお手伝いをお願いしたいことが、上手く伝わらずに困ったこともありました。

限られた時間の中で学ぶことは難しく、大変なこともかもしれません。しかし、せっかくの機会ですから、参加した皆さんに多くのことを見て感じ、学び、子どもたちの生活に生かしていただきたいと願っております。

そこで提案ですが、公開保育の1日目を9:00~15:00くらいの公開保育・質疑応答にして、15:00~17:00くらいの分科会を設けてはいかがでしょうか?

せっかく、自園を休園にして学ぶ日にしていることと思いますので、一日を有意義に使うてはいかかと思えます。

「幼児教育の成果を社会に示そう」という研究課題は、各園に科せられたものと思っております。公開保育を行ったことで、その一端を担えたかと思いますが、今後も2園で、この研究課題に取り組み成果が出るように幼児教育に取り組んで参ります。

貴重な機会を頂きまして、ありがとうございました。

## 公開保育を終えて

光塩学園女子短期大学附属幼稚園

立野 夕紀

この公開保育を行うにあたり、「いつもの幼稚園・ありのままの子ども達」を見ていただきたいという思いから、子ども達の良さについて教師全員で話し合いを行うことから始めました。たくさん意見の中、誰とでも明るく接し、仲良く遊ぶ姿は園生活を通じて出来た「つながり」ではないかとの結論に達しました。

今回のテーマ『育ち合う人間関係〜異年齢活動を通して〜』はそこから生まれたものです。そこで、その中でも一番自然な形での縦のつながりが見られる異年齢活動（『グループの日』と本園では呼んでいます）を見ていただくことに決定しました。

当日は多くのお客様が来園していることや、子ども達は自主参加だった為いつものお友達がいらないこと、園で過ごす時



間が短いことなど、どうしても避けることのできない様々な環境の変化に戸惑う子ども達の姿も見られました。しかし、この時だからこそ縦のつながりの大切さを感じる出来事もあちらこちらで見ることが出来ました。

本園のグループ活動は、入園から卒園まで教師・子ども達の顔ぶれは変わることがありません。このような環境を作ることでグループの日でも安心して自分の居場所を見つけられるのではと考えました。また、活動は毎回異なるものを行っています。全ての子ども達が一年を通じて同じ体験が出来るようにという意図の下、内容はローテーションで行っています。このローテーションを取り入れることで子ども達は先の見通しが立つようになり活動に参加しやすくなりました。また、教師側も実際に保育を行うことで課題を見つけるきっかけにもなりました。三年前から本格的に始め、現在やっと土

台が作られたついでに状態を迎えた公開保育では、多くの来園してくださった先生からの貴重なご意見を頂くことができました。保育研究発表会や分科会は勿論、いま感じたことを直接お話ししていただいたことは、今後の保育に確実に役立つものと改めて感じています。至らない点多々あったと思いますが、ご協力いただいた皆様を支えられ無事に行えた事を心より感謝いたします。

最後に、『保育はエンドレス』です。また、その保育を行う者の力もエンドレスでなければならぬと思います。その為にもこのような機会を栄養剤として取り入れていくのはとても大切なことと実感しました。明日への大きな一歩につながるよう、これからも努力をしていきたいと思います。



### 公開保育を終えて

札幌わかさ幼稚園 岡井 瞳

この度は、公開保育という大変貴重な体験をさせていただき、感謝申し上げます。

公開保育当日は、35名の先生方に参加していただき、学びを深めるとともに、日々の保育を振り返ることができました。

本園では、(子どもの自主性を育てる保育)をテーマに、普段の取り組みから発展させた保育内容を公開させていただきました。各クラスの特徴を生かし、興味・関心を引き出しながら、子どもたちからの声を形にしていきました。

すずらん組(年中長縦割)では、豊かな個性を生かし、自分のイメージを形に表すことができるように、絵本作りの活動を行いました。ページの構成から子ども達自身で考え、自由に組み作り成しました。内容はグループ名を用いたダジャレとなり、子ども達の発想を十分に



発揮した作品が完成しました。はまなす組(年中長縦割)では、特に製作活動を好む子どもが多く、1学期に



自由遊びの中でお店屋さんごっこを行いました。当日は、クラス内で前半・後半に分かれて店番と客の両方を行い、実際に売る・買う活動と、開店準備や買ったもので遊ぶことを楽しむ姿が見られました。

ひよこ組(年少)では、子ども達が楽しみに取り組んでいるおでかけの活動を生かし、実際に年少児みんなで拾ったどんぐりを使用し、マラカス製作を行いました。使用した紙コップに、内側にも絵を描いている子がいて、自分なりに工夫している姿も見られました。製作後は、完成したことに喜びを感じ、演奏を楽しむ様子も見られました。

今後子どもたちの自主性を大切に、子ども達らしさを生かしながら、楽しく日々を過ごせるよう、今後の保育に繋げていきたいと考えております。

### 公開保育を終えて

発寒幼稚園 渡部 早紀

「夢に向かって……つなげようみんなの輝く笑顔」というテーマのもと、年間通しての縦割りチーム(兄弟チーム)で活動内容を子どもたちと話し合ってきました。当初、話し合いがなかなか膨らまず、異年齢の子ども達の成長・発達を理解してチームをまとめることやイメージを共有することの難しさを感じ、教師の役割についても考えさせられました。話し合いが進んでいくにつれて子ども達から活発な意見が出るようになり、活動に期待して楽しくあそぶ姿に子ども達と一緒につくりあげる喜びを実感することができました。

1日目の公開保育研究では、たくさんのお客様(先生方)が来園されることを子ども達はとても楽しみにしていました。普段通りに元気いっぱい登園する子ども達の姿やお手伝いをしていただいたお母さんたちに励まされ、私たち教師も「頑張ろう!」と気合が入りました、年



長児が満3歳児の手をひいてお世話をする姿や熱があっても今日の日を楽しみに頑張って登園してくる年中児の姿、ちやっかり他の幼稚園の先生の膝に乗って甘える年少児など普段通りのかわいらしい子ども達の様子に私たち教師も緊張することなく、普段の保育を見ていただくことができました。兄弟チーム活動が終わって、クラスに戻ってきた子どもたちは「楽しかった！ドーナツ食べたんだよ！」「宇宙人と握手したよ！」「これ見て！」「と口々に楽しかったことを報告したり、小さな手にしっかりと握りしめたお土産を見せてくれました。そんな子ども達の様子に担任は安心した気持ちと手を離れても、楽しんで活動する姿や成長ぶりに嬉しくなります。



今回の公開保育ではお母さん先生をはじめ保護者の皆様に応援していただき、改めて人と人とのつながりの温かさを感じました。いろいろな人との出会いや様々な経験がこれからの子ども達の夢に向かっていくための「生きる力」につながっていくことを願っています。また、

教師の役割や普段の保育についても多くの課題があり、たいへんに学びの多い研修となりました。

**公開保育を終えて**

インターナショナル山の手幼稚園 富山 香

本園では、平成17年よりイマージョン教育をスタートさせ、より深いバイリンガル教育を実践してまいりました。その実践の積み重ねと取り組みを今回の公開保育の中で発表し、多数の園長先生はじめ諸先生方に見ていただくことができました。本園にとっても有意義な一日になりました。

本園の園児にとつて、英語や外国籍の人達の存在はとても自然なものであり、子ども達は楽しみながら英語を習得しています。英語はもはや、世界の言葉であり、英語圏の国だけのものではなく、世界各国の共通語として使われています。本園の外国籍教員や外国籍園児の国も様々であり、英語はコミュニケーションとして大きな役割を果たしているのです。

イマージョン教育の特色は、英



英語をインプットし、そして、アウトプットできるようにしていくことです。また、その土台には、日本の幼稚園教育があるため、日本人教師と外国籍教員間での細かな打ち合わせは欠かせません。今回発表したクラスでも綿密な打ち合わせを繰り返し、それぞれの役割分担のもと教育活動を展開いたしました。全年齢共通テーマを持ち、その中で各学年の発達段階に合った教育活動を展開すること、学年間での違いを明確に表せるようにいたしました。参加していただいた諸先生方には、子ども達が英語を楽しみ、自然に習得している姿、そして外国籍教員も子ども達のために様々な工夫を凝らしながら教育活動を展開している様子を見ていただけたのではないかと思います。

本園は、子ども達が英語を習得し、将来、自国への誇り

語を教えるのではなく、普段の幼稚園生活が英語を用いて進み、その中でも子ども達は多くの園での英語教育は、様々な成果を成し遂げてきています。

今回の公開研究発表を行うことで、本園の教職員一同もこれまでの取り組みを振り返り、新たな課題と改善点を見つめなおすことができた貴重な時間になりました。ご来園いただいた先生方のおひとりでも多くの方が、本物の英語教育を感じ、それぞれの園での活動に少しでも生かしていただければ幸いです。

**公開保育を終えて**

山王幼稚園 石澤 里奈

今回の公開保育がきっかけで、自分の保育を見つめ直す事が出来ました。4月から始まった私の担当は男女合わせて32名の年長のクラスでした。

自分の意思をしっかりと伝える子、面倒見の良い子、控え目な子、様々です。日々楽しく過ごして、次の日に期待し帰れる様な保育を考えていました。しか



し、今の環境は本当に子ども達に適した  
 のだったのか、私の考えばかりになり、  
 子どもの意見を保育に取り入れていない  
 のではないかと疑問を持ちました。  
 そこでもっと子どもの視点に立ち、寄  
 り添った保育を考え直そうと感じまし  
 た。

そう気付かせて頂くきっかけとなった  
 公開保育に感謝しています。

私のクラスは公開当日、楽器作りと楽  
 器遊びを行  
 いました。

1学期か  
 ら取り入れ  
 ていたリズム  
 ム遊びを活  
 かし、次は  
 楽器に触れ  
 られたら良  
 いなと思い  
 計画しまし



た。

楽器の使い方から始まり、鳴らし方に  
 よって出る音が変わる事に気付いたり、  
 周りの友だちと一つの音を出す喜びを感  
 じながら行いました。

最初の曲は、皆同じ楽器・同じリズム  
 でしたが慣れていくにつれて、自分の役  
 割を決め行いました。

すると、より真剣になり、互いに教え  
 合う姿も見られるようになりました。

又、楽器作りでは、子ども達が自分で  
 作るという事で楽器に対し愛着がわき、  
 とても喜んでいました。

上手く音を鳴らせるか心配だった私で  
 すが、子どもが嬉しそうに自分で作った  
 楽器を持ち演奏する姿を見て安心しまし  
 た。

当日は、マラカスを作り今迄練習して  
 きた曲に初めてマラカスを加えて演奏し  
 ました。

皆スムーズに楽しみながら参加する事  
 が出来ていました。

沢山の反省点もありますが、子ども達  
 の楽しむ姿を見ながら公開保育が出来、  
 本当に良かったです。

沢山の方の支えに感謝し今回学んだ事  
 をしっかりと今後活かしていきたいと思  
 います。



公開保育を終えて

札幌市立中央幼稚園

杉森

久美子



公開当日は雨天にもかかわらず、自ら  
 環境にかかわって遊ぶ子どもたちの姿を  
 見ていただくことができました。『街中  
 の幼稚園であるにもかかわらず、雨の  
 中、戸外で元気に遊んでいる姿を見て驚  
 いた。子どもたちが自分たちで遊びを見  
 付けている姿から、いつもの姿であるこ  
 とが伺えた。裸足や、合羽を着てでも元  
 気に遊ぶ姿に共感した。』という感想な  
 どをいただき嬉しく思っております。

午後の分科会は『環境を大切にする  
 気持ち』の芽生えは、環境にかかわって、  
 対象を好きになったり、その本質を知つ  
 たりし、自分にとって身近なもの、大事  
 なものとなっていくという体験を通して  
 はぐくまれるのでは。』という本園の

実践発表からスタートしたのですが、そ  
 の後のグループ討議では、『環境を大切  
 にする気持ち』の芽生えをはぐくむため  
 の各園の取組や子どもの姿、その育ちの  
 捉えなどを紹介し合いました。『自然が  
 たくさんあるからといって、それは本当  
 に豊かだといえるのか。』『環境教育：を  
 難しく考えていた。身近なものを丁寧に  
 ……』という参加者の話に共感。普段やって  
 いることだと思つた。』『自然と触れ合う  
 体験、雨の日に遊ぶことで得たワクワク  
 の体験などでは、子どもの目の輝きが  
 違う。』など、各グループから、環境を  
 大切にする気持ちの芽生えをはぐくむた  
 めのキーワードが幾つも出されました。

『今の中学生は生活体験が希薄、気付  
 けない幼児が多い。』などと話されて  
 いた助言の工藤真嗣先生でしたが、最後  
 は『心の育ちは豊かな体験を通して育ん  
 でいくことに尽きる。リアルな体験こそ、  
 幼児期に必要な経験。』日々の生活の中



や「普  
 段やつ  
 ている  
 ことの  
 中」に  
 エコが  
 ある。  
 実際に  
 やって  
 みるこ  
 とで気

付くことがある。様々な経験をするこ  
がとても大切。豊かな体験と、継続でき  
ることが大切。」と、この会を締めくくっ  
ていただきました。

本研究会での発表は初めてでしたの  
で、手ごたえを知りたくアンケートも取  
らせていただきました。『新しい見方、  
発見があった』『周りがある環境を改め  
て考える機会となった』『もつと工夫で  
きそう』『難しいテーマだったが、的が  
絞られた話し合いだった』『自分の引き  
出しを増やせた』『保育に生かせるヒン  
トもたくさん聞くことができた』などの  
感想にほっとしたと同時に、園の職員一  
同、感動で一杯になりました。そして一  
番嬉しかった感想は、『もつともつと交  
流したい』でした。たくさんの方と大事  
なテーマで交流することができ、このよ  
うな機会をいただきましたことを感謝し  
ております。

本当にありがとうございました。

### 公開授業を終えて

札幌市立元町北小学校 校長 渡辺 寛志

第54回北海道私立幼稚園教育研究大会  
札幌ブロック大会兼第43回札幌市私立幼  
稚園教育研究大会に本校の750名の児  
童と30数名の教師が全学級の授業を公開  
し、80名を超える幼稚園の先生方に小学  
校の学習の様子や給食時間、休み時間の  
様子などを参観いただきました。幼保小

の連携の必要性を再確認できたことに  
礼申し上げます。また、このたびの授業  
公開には、ひがしなほ幼稚園の教職員  
の皆様にお力添えをいただきました。心  
より感謝申し上げます。

本校の研究は、「自ら考え ともにひ  
びき合う 子どもの育成」を主題に掲げ、  
考えを出し合い、聞き合い、学ぶ楽しさ  
を実感できる授業を目指しております。

授業公開においては、普段、あまり見る  
ことのできない小学校での日常の学習の  
様子を参観していただくことにより、1  
年生から6年生までの発達段階の違いや  
成長の違い、学習内容および学習展開の  
違い、さらには、小学校各学年の教師の  
かわり方などの工夫を感じていただく  
ことができました。また、特別支  
援学級の学習の様子や教師が一人一人の  
児童にかかわる場面からも幼稚園での活  
動や効果的な保育の参考になったのでは



ないかと思えます。

オリエンテーションでは、小学校生  
活の様子や目指す子どもの姿を新学習指  
導要領と札幌らしい特色ある教育の両面  
からの解説と小学校に入学するまでの流  
れの説明をいたしました。その後の研究  
協議では、各グループによる交流が行わ  
れました。各グループには小学校教師  
や小学校教師であった園長先生も交え、  
「今、幼稚園では何をどのようにしてい  
たらいいのか」ということを考えていく  
ことができた活発で効果的な討議でし  
た。

今回の教育研究大会を通して、幼保小  
の連携の大切さと必要性を改めて実感し  
ました。このような機会から、幼稚園の  
先生と小学校学校の先生が気軽に交流が  
でき、お互いの園児、児童の様子を知る

ことや先生方の困り感の解消、幼稚園で  
進めていかなければならないこと、小学  
校で進めていかなければならないことな  
どが明確になっていくことを願っており  
ます。今後も幼保小の円滑な接続のため  
に、交流がますます深まっていくことを  
期待します。



# 園紹介 アラカルト

## 札幌いづみ幼稚園

園長 杉原美珂子

当園は昭和30年に個人の自宅を改築して創設したのがはじまりです。

いづみ幼稚園の名称の由来は地下からわき出るいづみの澄んだ水、物事のみなもとという意味です。いづみで育った子どもたちがやがて大海（社会）の中に出ていき世の中の役に立つ人間になって欲しいという思いで命名しました。

### 教育方針

知識を詰め込むのではなく、発達にそった幼児の主体的な活動を重視するピアジェの教育理論を基に保育を展開する。そのために個々の子どもに対する保育者の深い見取りと一人ひとりの子どもに対するサポート体制を心掛ける。

また、偏らない教育を大切にし、いろいろな選択肢



から選べるように幅広い活動を保育に取り入れる。

### 教育目標

- ・ 自立の芽生えを伸ばす。
- ・ 協力し合っ
- ・ 知恵の力と豊かな感性を培い、創造する力を育てる。
- ・ 感謝する気持ちを持つ。



### 園の特徴

- ・ ピアジェ理論に基づく数概念や理論的思考の基礎を教育方法や教材に組み込んでいます。
- ・ 体の各機能がバランス良く成長し、心身の健康が保たれることをねらい、専門講師による体育あそびを取り入れています。
- ・ 音楽を通して集中力、反射反応能力、把握力、判断力を育てることを目的にして、専門講師によるリトミック活動を取り入れています。

心も身体も健やかに育つように願って、様々な活動を通して子ども自ら自己表現する喜びが持てるような保育を目指して日々取り組んでいます。

たとえいづみの水が細くなったとしても濁った水とならないよう努力していこうと思っています。

## 幌北幼稚園

副園長 細川 夕州妃

幌北幼稚園は子どもたちに「夢・愛・感動」を与え、生涯において心のふるさととして残るような幼稚園でありたいという願いのもと、昭和48年に對木五郎により設立されました。これが現在も建学の精神として深く根付いています。

当園では子どもたちが人として成長していく上で沢山の経験をさせてあげることが大切と考えています。友だちと遊んで楽しかったという経験がなければ友だちを求める気持ちちは生まれませんし、何かをやり遂げた時の達成感を味わったことのない子ども



私たちは新しいことに挑戦してみようとする意欲も生まれません。

当園では生活の中で子どもたちに「楽しかった！面白かった！」と

心に残る経験をさせてあげられるような保育を心がけています。時にはお友だちとけんかをして悲しい気持ちや、つらい経験をすることもありすが、それも経験のひとつと考え、その気持ちに寄り添い乗り越えていけるように愛情を持って導くことが大切だと思います。その経験の積み重ねがやがて大きな力となり大人になった時に自分から一歩踏み出す勇気にかわるものと信じています。

また、子どもたちのいちばん近くにいらっしゃる先生も喜んだり、楽しんだり一緒に感動できる存在でなくてはならないと考え、感じる心を忘れずに毎日子どもたちと接しています。

創立以来、沢山の子どもが巣立っていった園舎でしたが40年近くが過ぎ、老朽化が進んだ為に昨年度全面リニューアルし、新園舎が平成23年3月に完成いたしました。新しい園舎は「温かい雰囲気の中、子どもたちの姿を見守ることができる幼稚園」をコンセプトに建設いたした

ました。すべての保育室から園庭を見渡すことができ、元気に走りまわる子どもたちの姿がどこからでも見えます。廊下を歩くと、保育室の中で先生やお友だちが楽しく活動している様子を見ることもできます。また、天窓からはおひさまのひかりが差し込み園舎全体が明るい雰囲気包まれています。

これからも新しくなった園舎とともに創立者の願いであった、「子どもたちに「夢・愛・感動」を与え一緒に成長していけるような園でありたい」と思っています。

### 平成23年度札幌市私立幼稚園連合会臨時総会

平成23年9月15日(木)午後3時30分  
ホテル札幌ガーデンパレス  
2階丹頂の間

一般社団法人移行に向けた臨時総会が開催されました。事前意思表示および委任した役員、出席会員を合わせ92名となり定款第6条により成立しました。議長に



会長挨拶



山田議長

白石区しろいし幼稚園園長山田肇先生を選出して審議を行いました。  
議案第1号  
一般社団法人移行認可

申請の提出」について、権沢正史事務局長からその経緯と手続き及び行程が提案され、承認されました。平成24年4月1日一般社団法人の登記を目指します。続いて、議案第2号「一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会定款」の変更案について権沢事務局長から、「定款の定め(例(社団法人サンプル定款(内閣府平成21年11月))」にそって、現行の定款と照合しながら作成した定款(案)について説明・提案し、全会一致で決議されました。



会場風景

### 幼児教育を語る会

平成23年10月17日(月) 11時

札幌市役所

16階議員会議室

札幌市私立幼稚園振興議員連盟(会長

三上洋右市

議会議長、

他市議10

名)との「幼

児教育を語る

会」が市役所16階「議員会議室」で行

われました。振興議員連盟の三上会長を

はじめ議員各位と札幌市私立幼稚園連合会

会長ならびに4副会長、本会から総務

委員と事務局長など総勢24人で意見交換

をしました。

会は芝木捷子会長の挨拶で始まり、続

いて振興議員連盟を代表して三上会長か

ら挨拶を頂きました。出席者全員の自己

紹介後、

東重満副

会長と大

野浩人P

連会長の

2人から

「平成24

年度の予

算に対す

る要望

書」(案)



北村議員自己紹介



会場全景

について趣旨・要望事項について説明をし、議員の先生方から私立幼稚園の現状や札幌市における待機児童の解消対策などを含めた幼児教育全般についての質問やご意見をいただきました。



市立幼稚園園跡の利用について質疑



三上議連会長



振興議員の先生方

## 平成24年度 代表者会議

平成23年10月19日（水）午後3時30分  
札幌市生涯学習総合センター  
（ちえりあ）6階講堂

平成23年度の代表者会議は、10月19日（水）午後3時30分から西区ちえりあ6階講堂において、「私立幼稚園に対する新規補助事業」と「平成23年度札私幼実態調査概要報告」を主題として開催されました。

芝木会長の挨拶に続いて、前鼻英蔵振興委員長から、札幌市が発表した「第3次札幌新まちづくり計画」（案）の中で、私立幼稚園に関わる事項について、教育委員会ならびに子ども未来局との話し合



前鼻振興委員長の説明



熱心に聞く参加者



会長挨拶



司会の山田先生

いの経過と内容について説明されました。施策目標「子どもの笑顔があふれる街」の中の私立幼稚園に対する新規補助事業の一つ、「認可外保育施設運営支援

事業」（札私幼では仮称札幌保育室）は、幼稚園の空き保育室を利用し、保育に欠ける1・2歳児を保育する認可外保育施設（調理室は無くても）で、もう一つは預かり保育の充実の2タイプについて説明されました。

また、待機児童解消対策について①認可外保育施設（仮称札幌保育室）運営支援事業」と②「私立幼稚園預かり保育運営支援事業」の実施の可能性についてのアンケートも実施されました。

引き続き、平成23年度札私幼実態調査概要報告書をもとに前鼻振興委員長から説明がありました。

## 平成24年度予算要望活動

10月28日（金）9時45分から11時30分

札幌市役所・教育委員会  
例年この時期に行われる次年度予算要望活動は、

札私幼総務委員、札私幼P連から会長・副会長および札幌市私立幼稚園振興議員連盟の市議会議員10人の同席の



教育長挨拶

もと、9時45分から教育委員会会議室において北原教育長に、10時40分から市役所10階市長応接室で渡部副市長に、「平成24年度の予算に対する要望書」をそれぞれに提出し、副市長には、P連がイコール運動で集めた8万余人の署名を手渡しました。芝木会長と東副会長、大野P連会長から陳情し、同席議員を代表して三上洋右会長から要望意見を述べていただきました。

予算要望内容は、札私幼から①特別支援事業②教材教具補助事業の見直し③預かり保育事業④私立幼稚園における認可外保育施設（仮称札幌保育室）⑤団体補助の拡充、P連から①就園奨励費補助金



大野P連会長



の充実②団体補助の拡充に関すること  
した。



副市長挨拶



会長陳情



教育長に提出

# 連合会誌(抜粋)

8月20日(土) にこここフェスティバル

厚別体育館(主催幼児教育センター)

白石区の会員園も協力

総務委員会

8月30日(火) 理事会

9月7日(水) 臨時総会 札幌ガーデンプアレスホテル

9月15日(木) 議題「一般社団法人移行申請と定款の変更」

9月23日(金) 幼稚園就活フェア(主催北私幼)

9月30日(金) 札幌プリンスホテル 教研大会第1日



10月1日(土) 公開保育 教研大会第2日 全体会

総務委員会

10月6日(木) 入園願書配布

10月15日(土) 市役所16階議員会議室

10月17日(月) 幼児教育を語る会

10月19日(水) 代表者会議

10月28日(金) ちえりあ6階講堂

10月28日(金) 平成24年度予算要望

11月1日(火) 札幌市長・教育長

11月4日(金) 入園願書受付開始

11月25日(金) 総務委員会

11月28日(月) 総務委員会

12月1日(木) 総務委員会

12月12日(月) 教育委員会・子ども未

来局からの説明

総務委員会

理事会



## 編集後記

○札幌市が発表した待機児童の解消のために、私立幼稚園を活用した①預かり保育運営支援事業②空き教室を利用した認可外保育所(仮称・札幌保育室)運営支援事業が盛り込まれています。待機児童の解消のために現場の教職員にこれ以上の負担をかけぬよう要望しながら、預かり保育の充実と3歳未満児の受け入れ、幼児教育を取り入れた札幌スタイルの保育運営を行い、子育て支援および就労支援に寄与することを札私幼は検討し

ています。今後の情報に注視して行きたいものです。

○「子ども・子育て新システム」についてあまり報道されませんが、全日私幼や北私幼からの情報を確認していきましょう。

○札幌幼児教育研究大会で公開保育をされた園の皆さん原稿をありがとうございました。特に市立中央幼稚園の池上園長先生と教職員の皆様、また元町北小学校の渡辺校長先生と教職員の皆様に感謝いたします。(広報 澤田)

